

農学委員会農業生産環境工学分科会(第21期・第1回)議事要旨

日 時： 平成20年12月17日(水) 13:00~14:50

場 所： 日本学術会議6階 6-A(1)会議室

出席者： 青木正敏、磯田博子、後藤英司、鈴木義則、高辻正基、野口 伸、野並 浩、橋口公一、橋本 康、早川誠而、真木太一、三野 徹、村瀬治比古、奥島里美(オブザーバ)、小川保彦(事務局)

欠席者： 大政謙次、山形俊男

資 料

1. 農学委員会農業生産環境工学分科会(21期1回)議事次第
2. 分野別委員会分科会の委員推薦
3. 遺伝子組換え作物実験施設の環境構築
4. 遺伝子組換え関連記事「BSEやGMOに対する日本人の対応に苦言」
5. 共同利用・共同研究拠点の認定について(要望)
6. 公開シンポジウム「黄砂および大気汚染物質の越境輸送問題」
7. 名簿：農業生産環境工学分科会

議 事

1. 委員長、副委員長、幹事の選出を行った。委員互選の結果、真木委員が第20期に引き続いて委員長に選ばれた。委員長から副委員長に橋本委員、幹事に野口委員が指名され承認された。
2. 委員長から本分科会にとって必要不可欠な人材である奥島里美氏を委員及び幹事として加えたいとの提案があり承認された。提案を具体化するために奥島氏を特任連携会員として幹事会に推薦することも満場一致で承認された。
3. 今後の分科会の推進方向について議論した。当面、前期からの継続課題である農業環境工学教育、遺伝子組換え作物実験施設について審議を進めることになった。
4. 農業環境工学教育については早川委員が中心となり作業を進めるが、作業分担して効率的な検討・とりまとめを行うことになった。教育法については青木委員、大政委員、野並委員がコンピュータ等を活用した方法などを検討する。技術者教育の観点からJABEEとの連携も視野に入れる。また、技術教育の観点では文部科学省高等教育局に対してヒアリングを行うことも有効ではないかとの意見が出された。
5. 遺伝子組換え作物実験施設については報告書のとりまとめを進める。分科会から報告書を親委員会に6月ごろ提出できるよう後藤委員が作成作業を進める。
6. 委員長から2月20日に琉球大学(おきでんふれあいホール)で公開シンポジウム「黄砂および大気汚染物質の越境輸送問題」を開催するとのアナウンスがあった。
7. 本分科会が取り扱う学術分野と深く関連する筑波大学北アフリカ研究センターを共同利用・共同研究拠点に認定してもらうよう分科会として要望書を関連機関に提出することの可否を審議した。分科会として要望書を出すのが難しい可能性もあるが、その場合でも当該センターを共同利用・共同研究拠点にする必要性は十分理解できるので、委員有志で要望するなど可能な限り支援することが承認された。